

建設技術審査証明書

[開発目標型]

技術名称：FFT-S 取付管工法
(取付管の修繕工法)



審査証明第 1853 号

(開発の趣旨)

現在、取付管の老朽化などを原因とした道路陥没が増加している。また、本管と取付管の接合部での浸入水の問題も深刻化している。そこで、本技術は、非開削で取付管内面を一工程でライニングでき、本管と取付管の接合部の止水性を確保できる工法として開発した。

(開発目標)

本技術の開発目標は、次に示すとおりである。

- 取付管部施工性：次の各条件下で取付管を施工できること。
 - 8 m 以下の施工延長
 - 15° 以下の屈曲角
 - 15 mm 以下の段差
 - 50 mm 以下の隙間
 - 60 度以下の曲管部
- 接合部施工性：次の各条件下で本管と取付管の接合部の施工ができること。
 - 水圧 0.05 MPa、流量 2 L/min 以下の浸入水
 - 10 mm 以下の隙間
- 強度特性：ライニング管は、次の強度特性を有すること。
 - 曲げ強さ
 - 短期試験値 40 N/mm²以上
 - 曲げ弾性率
 - 短期試験値 2,300 N/mm²以上
 - 長期試験値 2,210 N/mm²以上
- 耐劣化性：ライニング管は、50 年後の曲げ強度の推計値が、設計値を上回ること。
- 耐薬品性：ライニング管は、「下水道用強化プラスチック複合管 (JSWAS K-2)」と同等以上の耐薬品性を有すること。
- 耐摩耗性：ライニング管は、「下水道用硬質塩化ビニル管 (JSWAS K-1)」と同等程度の耐摩耗性を有すること。
- 水密性：硬化後の本管と取付管の接合部は、0.1 MPa の外水圧、内水圧に耐えられる水密性を有すること。
- 耐高圧洗浄性：硬化後の本管と取付管の接合部は、15 MPa の高圧洗浄で剥離・破損がないこと。

(公財) 日本下水道新技術機構の建設技術審査証明事業 (下水道技術) 実施要領に基づき、依頼のあった「FFT-S 取付管工法」の技術内容について以下のとおり証明する。

なお、この技術は 2006 年 3 月 1 日に審査証明を取得し、更新された技術である。

2019 年 3 月 15 日

建設技術審査証明事業実施機関

公益財団法人 日本下水道新技術機構

理事長

江藤 隆



記

- 審査の結果
上記すべての開発目標を満たしていると認められる。
- 審査証明の前提
 - 提出された資料には事実と反する記載がないものとする。
 - 本技術に使用する材料は、適正な品質管理のもとで製造されたものとする。
 - 本技術の施工は、標準施工要領に従い、適正な施工管理のもとで行われるものとする。
- 審査証明の範囲
審査証明は、依頼者から提出のあった開発目標に対して設定した審査方法により確認した範囲とする。
- 留意事項および付言
 - 本技術の施工にあたっては、標準施工要領に基づいた施工を行うこと。
 - 本技術の施工にあたっては、大気汚染防止法等の関連する法令・条例等を遵守し、安全衛生対策を行うこと。
- 審査証明の詳細 (建設技術審査証明 (下水道技術) 報告書参照)
- 審査証明の有効期限 2024 年 3 月 31 日
- 審査証明の依頼者
タキロンエンジニアリング株式会社 (大阪府大阪市北区梅田三丁目1番3号)